



おばあちゃん  
からの  
ひとこと

奈美子は気性が激しく、泣いてでも自分の意見を押し通す、負けずぎらいのところがあります。学校では、勉強にも頑張っているようだが、特に運動が得意で、これからもお姉や弟たちと仲よく勉強したり、遊んでほしいのです。



奈良 奈美子  
(太田小・3年)

## 今月の主な記事

- よみがえれ過疎.....2
- 過疎サミット開催.....2
- 市浦営林署開庁100周年.....3
- 連合PTA合同研究大会.....4
- 協元小創立100周年.....5
- 共同保健計画会議.....6~7
- あすを拓く.....8~9
- ふるさとまつり.....8~9
- 歴史漫歩.....10
- おしらせ.....11
- 健康への道.....12
- 戸籍の窓.....12

## おばあちゃん大すき

おばあちゃん、とてもはたらきもので、秋になると、遠くにあるかかみの畑からきくの花を田んぼのように取ってきてかわかします。私の大ごぶつごのきく料理を作ってくれます。また、つけものは、おばあちゃん一人で作ります。これもわたしの大ごぶつです。おばあちゃん、力仕事だけしているではありません。おの紙の名人です。今、わたしに干ばつるをせつせと作ってくれているさい中です。

わたしは、おばあちゃんのすきなわけは、ほかにあります。それは、きょうだいげんかをしたとき、私の味方になってくれるのはきまつておばあちゃんなのです。

また、めづかしいことばつれて行つてくれます。とねんね、こねんねおごりかいもくれます。

はたらきもので、一度も病気をしたことはないおばあちゃん。わたしのねがいを一番よく知ってくれるおばあちゃん。いつもほかにこして小ごを言つたことのないおばあちゃん。そんなおばあちゃんが大すきです。

# よみがえれ過疎 地域活性化への挑戦

## '86過疎サミット開催

### 三重県 日本海黄金祭を提唱

県内の過疎地域指定町長らが、過疎脱却への道を語り合う「過疎サミット」は、十月三十一日と十一月一日の二日間、三戸郡新郷村で開かれ

県内の過疎団体も過疎からの脱却を合言葉に意欲的に取り組んでいますが、昨年十月過疎十六町村の首長が本村に集まり、第一回過疎サミットを開き、定住と自立への道を探りました。

二回目は、中郡西



豊かな地域づくり、人づくりについて、パネルディスカッションが行われた過疎サミット。

総論と建前論が目立った。人口対策で論が分かれており、今年は各論にもついていた」と述べ、上村章文県地方課長、開催地の木村弥太郎新郷村長があいさつしました。

このあと、①豊かな地域づくりをめざして、人づくり、産業おこし、②高齢化社会への対応の二つをテーマにパ

ネルディスカッションが行われました。笹森正東北地域文化研究所長をコーディネーターに、パネリストは熊谷啓子八戸村社会研究会事務局長、石澤多佳樹佐井村長、保健看

## 町村長会談で

### 豊かさの実現めざす

第二のテーマでは花田さんが高齢化社会に對して、地域の生産活動に高齢者も何らかの形で参加できれば望ましい。21世紀までに行政、住民とも力を合わせて乗り越えたいと、保健面での行政サービス、自助努力、地域の助け合いなどを助め、木村平館村長は「高齢化社会を寿命の革命時代と位置づけて、中高年齢層の雇用制度の確立が必要である」と、高齢者の救済を社会制度として確立することを提案しました。

二日目の町村長会談は「豊かさの実現めざす活性化への道」をテーマに、開催地の木村弥太郎村長を議長として進められました。

村おこしの事例として、山内一義中郡相馬村長が「りんごの生産性向上に力を置いてきたが、温泉利用によるエビ養殖を始めた。地域の活性化に波及の効果も取り組んでいる」と自信をもって取り組んでいる。岩川公博柏村助役はりんご、米の村から、野菜や肉牛を抱き合わせた複合経営

調研究家花田ミキさん、木村武一平館村長の四人。

第一のテーマでは、熊谷さんが「地域の中核都市が生きのびるためには、周辺地域と共存共栄する対策が必要だ。周辺地域と中核都市の責任と役割の分担を失いながら、地域の活性化を生かした村づくりをすべきだ」と、村づくり

への女性参加や、過疎町村と地方中核都市の連携を提言、石澤佐井村長の養殖漁業や、ラブリーさい販売事業の推進など村の活性化対策について報告しました。

への取り組みを報告、県南の複合農業先進町村に助言を求めました。また、津村正喜新郷村長は、東北自動車道のインターチェンジを活用した農産物の物流基地や、特色あるニータウンづくりなど、新しい形の活性化構想を示しました。

三重県市浦村長は「広域的なイベントとして、日本海を拠点とする市町村で、十三海を挑みに勢力を誇った中世の津軽の豪族、安東氏をテーマに、日本海黄金祭を開催したい」と提案したのに対し、松浦町深浦町長らが賛意を表明しました。

一方、高齢化社会への対応では、社会福祉協議会の法人化や痴ほう性老人の施設整備などについて、情報交換されました。

最後に、上村章文県地方課長は「過疎サミット自体がイベントである。一村一つがイ

ベントをやることも必要だが広域的にやることも効果は大い。地域の産業おこしを共同でやるのも重要なことだし、この場で話し合いを業務面で発展させてほしい」と結びました。

今回は中郡相馬村で開催することを決めました。

# 市浦 開庁100周年を祝う

## 市浦村に「記念の森」プレゼント

市浦営林署 菊池清壽署長  
の開庁百周年記念式典は、十

一月十五日午前九時三十分か  
ら、市浦村「ミニユニティセン

ター」に関係者約 百五十人が  
出席して開かれました。

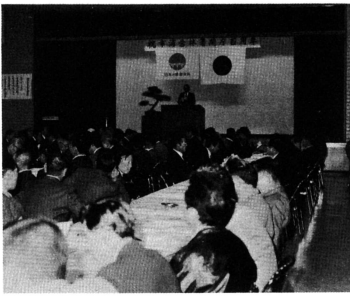
記念式典では、まず菊池清  
香市浦営林署長が「国有林野  
事業は、引き続き木材価格の  
低迷などにより、財務事情は  
極めて困難な状況にあるが、

経営の改善、合理化でこれを  
克服し、自己の持つ各種機能  
を高度に發揮することにより  
国民的の要請に応え、優れた  
国有林を次代に引き継いでい

くという使命を果たさなければ  
ならない」と式辞を述べた  
あと、青森営林局長（人事課  
長が代読）のあいさつがあり  
ました。

続いて、菊池署長から国有  
林事業に功献した地元関係者  
に感謝状を贈呈。記念事業で  
実施した「記念の森」ひば他  
三百本」の目録を三重営林  
浦村長に手渡しました。

このあと、三重営林長は「  
国有林野事業に数多くの地元  
雇用を生じ、人材の登用と地域  
活性化に尽力、地元経済と地域  
活性化に及ぼした影響は、は  
かり知れぬものがあつた。こ  
の百年は栄光の歴史であり、  
地域産業おこしのメッカでも  
あつた。今後も国有林の健全  
なる発展と地域経済の先導的  
役割りを継続してほしい」と  
また、加藤久宜小泊村長、成  
田一憲県議会議員は「国有林  
事業は、円高基調と貿易経済



開庁100周年には、約250人が出席して、新たな飛躍を祝いました。

により多難な時期に直面して  
いるが、21世紀への飛躍と希  
望を託し、次代へよりよい国  
有林を引き継ぐために努力し  
てほしい」と祝辞を述べまし  
た。

このあと、同会場で記念祝  
賀会が行われ、当時の思い出  
話に花をさかせるなど、百年  
の歴史を祝いました。

市浦営林署では、市浦村山  
村広場の一面に記念事業とし  
て「記念の森」を整備しまし

### 百周年の おいたち

市浦営林署は、明治十九年  
五月二十七日、農商務省令第  
八号で、青森大林区署のもと  
に小泊及び相内小林区署が設  
置されました。この省令は全  
国に二十一の大林区署、百二

十七の小林区署、六十七の派  
出所を設置したもので、オー  
ストリアの制度を模範にした  
ものといわれています。

この省令に基づき、同年七  
月、小泊及び相内小林区署が  
同時に開庁しましたが、明治  
二十七年二月には相内小林区  
署が廃止となり、小泊小林区

たが、式典当日午前九時から  
菊池営林署長、成田一憲県議  
会議員、三重営林浦村長、加  
藤久宜小泊村長らが、ひばの  
苗木を記念植樹しました。

また、百年の歴史を次代に  
引き継ぐため、記念標柱の地  
下には、タイムカプセルを埋設  
しましたが、二十年後に掘り  
起こすことにしています。



開庁100周年を記念して植樹する関係者



市浦営林署庁舎

署に合併されました。小  
泊小林区署を相内小林区署に改称  
し、庁舎も相内村吉野地区へ  
移転しました。

大正十三年十二月二十日、  
これまでの大小林区署制度が  
営林局署制度に改められ、相  
内営林署に改称されました。

# 市浦村連合PTAで合同研究大会

## 地域の連帯で青少年の健全育成を

関係者ら約90人出席

### 活動の在り方 学び合う

市浦村連合PTA主催の合同研究大会は、十一月十日午後六時三十分から、市浦村

「ミニティセンター」に、会員、教育関係者ら約九十人が出席して開かれました。

この研究大会は、「村全体の教育力を高めるためには、家庭、学校、地域がそれぞれ力を出し合い、強い連携の中で具体的な実践活動を推進させることが大切」として、村内各学校、PTA、保育所、行

政機関が一同に会して開いたものです。研究大会では、西北教育事務所の福田真弘主任社会教育主事が「家庭、地域の教育力を高め、村もみでの青少年健全育成が、なぜ叫ばれている



子供の健全育成には、地域ぐるみの連帯が必要……。

連合PTA合同研究大会

るのか」をテーマに、六十年度上半期の少年非行の特徴や最近の非行実例を引き出し、わかりやすく講演しました。その中で、「県全体では八百七十八人（二・四％）減少しているが、非行の中核は中学生であり、男子生徒の非行は減少しているものの、女子生徒の非行が増えているのが特徴だ。そして、非行の低年齢化が進行し、約一割の小学生が万引きをしていることも明らかになっている」と、指摘し注意を促しました。また、「いまの子供たちは、昔と違って物質的に何んの不自由でも手活し、親に頼めば何んでも手に入る」と思っている。一人か二人より子供を生まなくなっているため「大事に、大切に育てよう」と、つい世話をやき過ぎたり、過保護になっ



講演を聞く会員

も「おふくろの味」が、お袋の味」に変わってきている。特に「はしを正しく持てない子供が多すぎ。これは、親の責任だ」と、厳しく指摘し、分科会への問題提起としました。講演のあと、家庭教育の現状を反省し、自分をみつめ直して親、子が高まっていけばいいか」をテーマに、三分科会で意見交換をしました。分科会では、講演で問題提起されたもの、身のまわりで発生している実例などを話し合いました。短時間での分科会で、十分な話し合いは出来なかったものの、子供の健全育成強化のために、保育所、小・中・高校のPTA活動を活発にさせるとともに、地域ぐるみで連携を深めていくことを確認し合いました。



下山時敏 (相内・59歳)

市浦村では去る八月、長期総合計画審議会を発足させ、住民の意見を反映させるべく検討を急いでいるようだが、大賛成の一人である。過去にも長期計画書が作られているが、住民のニーズは全く盛り込まれず、特定の人だけによる机上プランで、実現したものも少なかったような気がしてならない。住民は、自分自身に直接うけるおいのある計画内容でなければ、本気に受け止めてくれないと思う。住民一人ひとりに潤いをもたらすため、新たな視点で畑作振興に取り組んではどうか。畑地が全く捨てられている現状にある本村をみると、畑作振興による計画生産を推進し、農協や村が販路、流通面を担当するようになれば、農家所得の向上に結びつくとともに、農業以外の産業にも波及的效果をもたらすものと思つた。

村長に密着した行政を



新たな飛躍を誓い合った式典



82人の全児童が喜びの言葉を述べた



式典に花を添えた踊り



110周年を迎えた脇小校舎

母の涙をささう感激のコマもありました。

はりきる子供たち



父母らの声援をうけて演劇に

脇小創立百周年を記念して、十月二十五日、創立百周年の記念式典を行い、全校児童や父母村関係者が、一世紀を超える同校の歩みをふり返りながら、新たな飛躍を誓い合いました。

同校は、明治九年に開校、同年から大正十二年まで脇元、磯松岡小学校に一時分離し、校名も何度か改称されたものの、昭和三十年の町村合併で市浦村立脇元小学校として新発足、昭和四十六

年には現在の鉄筋二階建て校舎が完成、移転しました。同校は授業中に「ゆらの時間」を設け、郷土芸能の「脇元小馬踊り」を取り入れて伝承に努めるなど、心算や人間づくりを目指した二、三ツな教育で知られ、これまで二千六百八十五人の卒業生を送り出しています。

式典は、同校六年生の山田美代子さんの詩朗読に合わせ、参列者が入場、卒業生物故者への黙とうに続いて、脇元智昭校長が「先輩の残して、立派な社会人となるため

職員らを表彰したあと、全校児童が「祖先の人たちの限らない努力と、果てしなく続く青い海を、私たちの財産として、立派な社会人となるため

てくれた伝統をしっかりと受け継ぎ、21世紀に羽ばたく、たくましい子供たちを育てたい」と、式辞を述べました。

記念事業協会の桑野邦夫PTA会長のあいさつのおと、工藤誠一即村助役、柏谷秀一教育長が祝辞を述べました。

また、歴代校長や永年勤続職員らを表彰したあと、全校児童が「祖先の人たちの限らない努力と、果てしなく続く青い海を、私たちの財産として、立派な社会人となるため

また、歴代校長や永年勤続職員らを表彰したあと、全校児童が「祖先の人たちの限らない努力と、果てしなく続く青い海を、私たちの財産として、立派な社会人となるため

また、歴代校長や永年勤続職員らを表彰したあと、全校児童が「祖先の人たちの限らない努力と、果てしなく続く青い海を、私たちの財産として、立派な社会人となるため

# 21世紀へ新たな飛躍 脇元小・創立110周年祝う

これからしつかり勉強します」と、この日のために練習してきた喜びの声を発表しました。

このあと行われた祝賀会では、父母らが工夫を凝らした手踊りや自慢のノドを披露し、百周年を祝いました。

## 創立110周年祝い学芸会 踊りや劇に大きな拍手



# 広げよう地域ぐるみで成人病予防



## まず予防年に一度はガン検診 正しい食生活で高血圧をなくしよう



約70人の村民が集まって開かれた共同保健計画会議

### 健康運動へ住民総ぐるみ

### 成人病予防に力

### 環境衛生も積極姿勢で

村民こそって健康管理を手がけよう」と、第十七回市浦村共同保健計画会が十一月十三日、午前十時からコミュニティセンターで開かれ、集まった村民五十人が、五グループに分かれて、一年間の反省と新年度に向けての保健衛生計画を話し合いました。

これまでの活動状況をふまえて、草の根健康運動の層々盛り上げをはかるとともに、来年度は、増え続けるガン疾患のほか、高血圧、成人病の早期発見と予防、老人の健康、母子保健に力を入れ、ゴミ処理などの環境衛生にも、キメ細かに取り組んでいくことになりました。

本村の医療機関といえば、診療所施設に頼らざるを得ない医療環境にありますが、昭和四十五年から村民共同保健計画会議がスタート、村民総参加で予防医学の意識を高め、健康管理を押し進めようというのが、ねらいです。村では毎年、共同保健計画を策定したうえで、行政と住民が一体となって、活発な健康づくり運動を展開しています。

この日開かれた共同保健計画会議では、三重県村長が、本村も年々、高齢化が進んでいるが、人生八十年時代を迎えて、さらにその対応策が望まれている、楽しい日常生活を送るためには、健康でなければならぬ。村民一人一人が健康に対する認識を持てるような施策を進めたい」と、五所川原保健所の福地保健予防課長は、県内における成人病の状況を説明したあと、「住民の健康管理は行政主導型では対応しきれない面があり、住民個々の自覚と地域ぐるみの協力が必要も多い。受診率の低下など課題も多いが、検診や健康教育を継続させることが大切だ」と、あいさつしました。

このあと、鎌田明美、野宮富子保健婦らが、村内における活動状況を報告し、成人病、母子保健、献血、環境衛生などの問題を提起し、成人病の受診率を高めるためには、①子供のむし歯をなくすには、②子供の歯の本数を増やすには、③献血本数を増やすには、④ゴミの収集場所の美化をはかるには――をテーマに、出席者が五つのグループに分かれて、問題を話し合いました。これには、五所川原保健所の山崎、加藤、福地課長のほか、田口保健婦らが助言、村民と一緒に一つ一つの問題を細かに査問し、全体会議では問題点を集約、保健計画に沿ってより充実した保健衛生活動を進めてゆくことを申し合わせました。

席上、広げよう地域ぐるみで成人病予防」を目標に、「まず予防年に一度はガン検診」「正しい食生活で、高血圧をなくしよう」のスロガンを承認。新年度において、高血圧症、ガン検診など、成人病予防を重点的に進めてゆくことにしました。

これらの背景には、村内では、昭和六十一年にガンで死亡した人が八人、六十一年のガン検診では、ガンの疑いのある人が少し減っているものの、成人病による死者が多い――ことなどが挙げられ、さらに対策の強化をはからうというものです。

このため、ガン検診と総合検診を継続実施して、成人病の早期発見と予防をはかることにしました。

さらに、脳血管疾患の大きな原因となっている高血圧症については、高血圧者の訪問指導や健康教育、健康相談などを実施することにしました。

また、妊産婦など母子保健、老人の健康対策などについても、キメ細かに手がけようほか、増え続けるゴミ対策などにも積極的に取り組むことにしています。

談が述べられました。「検査を受けて病気がみつかった。検査

# グループ討議で

## 要望、意見次々

五つのグループ討議で出された、テーマごとの要望、意見

### 男性の受診率を高めるにはどうしたらよいか

◆現状▼男性の場合、症状が重くなってから受診する。▼臨元地区は出張者が多く、男性がいない。▼在宅男性の場合は職場で受診している。▼在宅男性の比較的多い太田地区の胃がんの検診率が低いのは、意識向上の対策が必要だ。▼仕事が忙しいうえ、検査するが大儀だ。▼仕事に出かけ、日中不在であるため、受けたくても受けられない。▼他地区まででかけるのが大変である。▼家族を支える責任があり、病名がつくのがいやだ。▼検査を受ける年齢でないとかをくよくよしている。▼経済的なことを優先させ、健康管理の意識が低い。▼第四グループの中で、次のような体験談が述べられました。「検査

見は次のとおりです。あなたなら、どう思いますか。

早期のガンだといわれ、七十歳で手術を受けた。手術はいやだったが、今の元気な自分をみると、検査を受けて手術をしようかと思っている。」

◆夜場に望むこと▼しみみ漁は七時出漁するので、六時からでは無理がある。▼検診時間ももっと早くしてほしい。▼ア受診の料金割引を考慮してはどうか。▼出張者はお盆と正月には帰るので、その時期に検診日を設定する。



グループ討議で内容充実

▼検診車を利用できない人のために診療所を受けられる体制を作してほしい。▼職業別に日程を組んではどうか。▼別の場の検診も検討してほしい。▼会社側と協議して、検診を受けるようにしてほしい。▼男性の参加する行事と組み合わせるにはどうか。もう少し、PRの方法を考えてほしい。▼検診時期を毎年同じにしてほしい。

◆住民側でできること▼婦人会と衛生協力員がタイアップする。▼出張者は必ず検診を受けて、妻や家族がもっと積極的に説得する。▼町内会、老人クラブなどの組織で呼びかける。▼すすめられるのではなく、自らすすんで受ける自覚を持つ。

◆現状▼あまいものを取りすぎる。▼カルシウム不足。▼むし歯のない子供の親は、むし歯も少ない。▼歯みがきする習慣がない。▼歯みがきのおやつとの与え方に問題があり、保育所入所前にむし歯になっていない。▼祖父祖母のいる家庭は、孫の欲しがるものを与え

### 子供のむし歯をなくするにはどうしたらよいか

◆現状▼四百ccに切り替えられたため、こわいので行かない。▼訪問しても協力がない。▼献血車が来るのを知らない人もある。▼対象者が少ない。

◆夜場に望むこと▼保育所の母の会、学校PTAの会合の時に、むし歯予防の啓もうを実施し、実践できるようにして欲しい。▼歯科の先生は一人で大変だと思つ、歯科衛生士がいればよいと思う。▼児童、生徒の場合、授業があるので優先して欲しい。▼母親教育だけでなく、孫の育て方教育も実施してほしい。▼子供の治療時間を指定して欲しい。

◆住民側でできること▼むし歯をなくするために、妊娠時から栄養を考えた。▼むし歯は怖いものだ。歯は大事なものであるとの意識を高める。▼子供にだけやらせるのではなく、家族が手本をみせて家族ぐるみで実践する。▼孫のむし歯予防のため老人クラブで学習会を持つようにしたい。

◆現状▼四百ccに切り替えられたため、こわいので行かない。▼訪問しても協力がない。▼献血車が来るのを知らない人もある。▼対象者が少ない。

### 献血本数を増やすには、どうしたらよいか

◆現状▼四角いので更替が早い。▼容器は高価なので補助できないか。▼カラスによる農作物の被害が大きいので対策を。▼岩井ごみ

◆夜場に望むこと▼事業所に協力を求める。▼回数や時間帯を再検討して欲しい。▼PR不足であるから考えて欲しい。▼地区別に実施する。

◆住民側でできること▼婦人層がもっと積極的に受ける時期(お盆など)にする。▼一人でも多く、健康的な時に献血する。▼地域でのPRを強化する。▼献血はみんなのものであるという認識を持つ。

◆現状▼松林に捨てられて出している。▼決られた日以外に出している。▼カラスにつつかれ、乱雑になっている。▼生ごみが多くなっている。▼自家処理のバケツは売れない。▼太田振興会では、ニヤ板で大きな箱を作って、アミを貼っている。▼回収車が遅い。▼農作物も出している。

### ごみ収集場所の美化(自家処理)を高めるには……

◆住民側でできること▼ごみは町内会を通じて、地域の自主管理で行うべきであるし、燃えるごみ、生ごみも自家処理に努力すべき。▼町内会で取集場所を管理すべき。▼袋に名前をつけて出す。▼町内会でごみ箱を作ることも検討する。▼ごみの出し方を工夫し合い、きれいにする運動を展開する。▼魚の頭などは畑の肥料にする。▼環境美化宣言の村にはじないように、一人一人が気をつけ、周辺、河川等の美化に努める。



同じテーマを5グループに分かれて討議

# ふるさとまつり

## リサイクルバザー等盛大に

「あすを拓く、ふるさとまつり」は、十一月一日から三日まで、市浦村コミュニティセンターと、市浦海洋センター（体育館）を会場に開催されました。

このまつりは、昭和五十五年「公民館まつり」としてスタートしたのですが、五十七年に、コミュニティセンターが完成したことにより、内容を充実させ、名称を「あすを拓く、ふるさとまつり」に改めました。

数えて七回目となったふるさとまつりは「より豊かな文化を創造し、心の交流と豊かで活力のある郷土の発展」を目指しています。

会場では、日常生活用品や地元産品を紹介したり、安い価格で品物を提供、地元産業と文化面への認識を深めてもらうと、新しいコーナーも設け、まつりの充実を図りました。

会場には、十二のコーナーを設けましたが、講演と映画のコーナーでは、宗教史研究家小館衷三氏を講師に招いて「十三藩と上方文化」をテーマに、文化講演会を、映画は、「お母さんのつうしんば」が上映されました。

郷土芸能と創作劇のコーナーでは、太田公民館文化サークルによる人形劇「金太豆蔵」、演劇サークル阿蘇部族の創作劇「安楽物語」、市浦中学校三年有志による演劇「コロンカの英雄」等のほか、十三の砂山保存会や相内芸能保存会に応じました。

市浦海洋センターでは、美術、創作展が催され、児童、生徒、一般から募集した書、絵画、写真などの作品が展示されたほか、趣味の創作作品展には、菊花、盆栽、アイデア作品、陶芸品、木工品など、丹精こめてつくった作品が展示されました。

### 創作展も内容充実 見事な作品ズラリ

市浦海洋センターでは、美術、創作展が催され、児童、生徒、一般から募集した書、絵画、写真などの作品が展示されたほか、趣味の創作作品展には、菊花、盆栽、アイデア作品、陶芸品、木工品など、丹精こめてつくった作品が展示されました。



リサイクルバザー

お茶思いかがてすか

市浦の味はいかが

のりまきコーナ

市浦牛の販売



十一月二日には、郷土芸能発表大会が行われ、踊りや劇、人形芝居などに大きな拍手や声援がありました。



# 第7回

# あすを拓く

## 文化講演会・演劇



市産の特産品販売



郷土芸能 隠元チーム



郷土芸能 十三チーム



郷土芸能 相肉チーム



市産中の演劇



演劇「安東物語」



児童・生徒、一般村民の見事な作品には目をみはるものがありました。(入賞者を囲んでの記念撮影)



創作劇「安東物語」は新しい呼びものとして好評を得た。



「もちつき大会」も、まつりには欠かせないものとなりました。

十一月三日夜行われたカラケ大会にも多数の観客が。

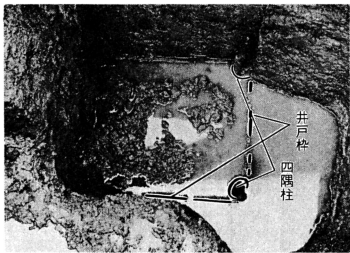




# 福増城址 (4)

奥の細道

▶75◀



実取第一井戸址井戸枿「館址」所収

重臣屋敷か

外郭の一区域に、小土塁

に囲まれた相当な面積の地域が存在していたことが思われます。すなわち、外郭東北・道路に面した所がそれに当たります。(2) (地図参照)

ここはおそらく、秋田家古文書「十三湊新城記」の「然して館内数千の居室、城外方戸の民舎」云々とあります。館内数千の居室であったものと想像されます。いわゆる家臣団の住居した区域で、さらにその内の土塁で囲まれた一郭は重臣たちが入居した館であったものでしょう。

### 井戸の構造

さらに眼を展じて、昭和三十年の発掘で姿を現わし

た外郭の井戸址を調べてみることにしましょう。

井戸址は二ヶ所発掘されていますが、地表から約二・五メートルの深さに達して始めて井戸枿が顔を出し始めます。側面の幅約九十一センチメートルの立方体の井戸です。底は岩盤に当たっていますが、残念なこと

に湧水がひどいのに井戸枿の深さは確認されなかつたようです。幅三十七センチメートルの板三枚を合わせて一側面とした正確さには驚させられます。四隅には頑丈な柱が入れられ、横に

朽木がはいり、内側に崩れないようにしてあります。おそらく釘が使用されていたものでないでしょうか。これがだいたいの井戸の構造です。

話が横道にはいりますが、十三方面羽黒崎(和歌山食堂辺)の海からなくさんの五輪塔の部分が取集されました。潮が退いた跡に昔井戸が顔を出すのですけれど、そここの井戸枿は経六、七十センチメートルの曲物様の枿なのです。相内方面が

武家集団、十三方面は商人集団の住居地だといわれていますので、こんな井戸枿にも差別があったものでしょうか。それとも時代が異なるためでしょうか。

### かまど

この井戸址の南方向一メートル地点に粘土組まのかまどが発見されました。焼土や木炭や灰が出ますので、当時使用されたかまどです。この外郭附近には七つの堅穴が確認されています。おそらく井戸址だと思いがすが、この近くにかまどが設けられていることはおもしろいことです。学者先生がたは井戸址とかまど址の関係が不明であるとおっしゃられますが、外郭・内郭に住居した武家たちの炊事場の存在を推測してみてもよさそうに思います。

鎌崎遺跡の二十数ヶ所の堅穴住居の存在などを考えますと、外郭には時に比べて、一般民衆の出入りもあつたものでないでしょうか。

### 津軽のことわざ

ひの部

百日の日照りに飽きない、三日の雨に飽きる。雨の日はいやなもの。

百商の馬にキズある、精白の米にもアラある。完全無欠はあり得ないというたとえ。

豊臣秀吉がご飯の中のアラを拾い、お守りとしたという逸話がある。

昼間音語ればねずみが笑う昔話を往語るとは禁忌(タブー)となっていた。昼は働く時で、昔ばなしは夜の団らんの時だけに語るものであるという意。

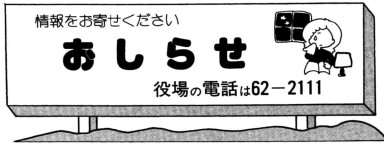
拾わぬ金分ける。現実でないこと。

買すれば疑する。貧乏するに、平素は和巧な人でも愚かになる。

貧乏はいがぐ。貧乏に拍車をかける。

貧乏、難儀は時の回り。世の中は運、不運がめぐっているようなもの、不運があるとき耐えしのべば良い時があるという意。

貧乏人の兼る粥ア湯ネなる。貧乏しているとかゆまで節約する。



困っていませんか  
お気軽にご相談ください

12月4日から10日までは「第38回人権週間」です。青森県方法務局と青森県人権擁護委員連合会では、次の強調事項を掲げ、県民の皆さんに人権尊重思想の大切さを呼びかけています。

1. いじめ、体罰の根を絶とう。
2. 部落差別をなくそう。
3. 女性の地位を高めよう。
4. 障害者の完全参加と平等を実現しよう。

毎日の生活の中で、お困りのときは、青森県方法務局五所川原支局（電話・34-2330）または、お近くの人権擁護委員にご相談ください。

相談は無料で、秘密は厳守します。

市浦地区人権擁護委員

- 安田 源藏（電話62-3426）  
成田 永吉（電話62-3525）  
鳴海 藤雄（電話62-2063）

自衛官2等陸・海・空士  
志願案内

安定した待遇と楽しい生活

- 身 分 特別職国家公務員
- 給 与

- (1) 初任給月額107,400円、9か月～12か月たてば1等陸・海・空士に昇任し116,900円
- (2) 期末・勤勉手当(ボーナス)は年間3回(3月0.5か月、6月1.9か月分、12月2.5か月分)合計4.9か月分支給されます。また、任期を満了した際にはそ

の都度、特別退職手当がつぎのとおり支給されます。なお、本人が希望すれば、その都度特別退職手当の支給を受けないで、その後の勤続期間に通算し一括して支給を受けることができます。

区 分	支給額
2年任用	1任期 406,000円
	2任期 678,666円
	3任期 726,000円
3年任用	1任期 634,000円
	2任期 918,666円
	3任期 762,000円

(昭和60年7月改正給与による。)

応募資格

日本国籍を有し、採用予定月の1日現在18歳以上25歳未満の男女です。

詳しいことは役場総務課、又は五所川原募集事務所(35-2305)まで。

火の点検忘れずに/  
防火の大役、あなたが主役

秋の火災予防運動が10月27日から11月2日までの7日間行われます。この時期は、火災多発期を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及をはかることにより、火災の発生を未然に防止し、死傷事故や財産の損失を火災から守ることを目的としています。市浦村においても、10月27日には消防署、消防団による合同パレードの実施、夜間の広報巡回、水利の確保などを行いました。

石岡 誠さん  
長男 成人ちゃん四歳  
成田 治さん  
長女 仁美ちゃん三歳



すこやか日記

火災は天災ではなく、村民一人一人が防火に気をつければ、火災は未然に防止できます。風呂釜の空焚き、タバコ火の不始末、寝る前の火の点検をしっかり行い、住みよい市浦村、明るい家庭を築きたいと思います。防火についてのご意見、ご相談がありましたら消防署、消防団にご連絡ください。

■火災発生件数

(1月1日から11月18日まで)

	発生	損害額
市浦村	5件	8,260千円

最低賃金のお知らせ

- 青森県最低賃金は、昭和61年12月30日から次のとおり改定されることになりました。
- 該当する適用事業場では、最低賃金を下回っていないか確認しましょう。

最低賃金別(労働日)	最低賃金額	
	1日	1時間
食料品・飲料・調剤・製菓業(61.12.30)	3,610	450
繊維産業(61.12.30)	3,410	425
木材・木製品・家具・装具品製造業(61.12.30)	3,570	445
出版・印刷・同関連産業(61.12.30)	3,590	450
窯業・土石製品製造業(61.12.30)	3,800	485
繊維・金属製品等製造業(61.12.30)	3,480	435
卸 業(61.12.30)	3,690	460
小 売(61.12.30)	3,410	425
自動車整備業(61.12.30)	3,680	460
青森県最低賃金(61.12.30)	3,251	407

◎最低賃金の相額は、下記におたずね下さい。  
青森労働基準局 電話34-4111  
又は最寄りの労働基準監督署へ

合格

おめでとう

第74回商工会珠算検定試験  
十一月十五日午後一時から  
各小学校において、第74回全国商工会珠算検定試験が行なわれました。受験者数が四十九名、合格者は次のとおりです。

- ▼二級 村上のぞみ(十三小) 辻分珠算学院(山田美代子)
- ▼三級 小山内みちる(浦田塾) 竹谷幸久(辻分珠算学院)
- ▼四級 秋月桃子(浦田塾)
- ▼五級 若山美奈子(十三小) 相川雅哉(浦田塾) 三和順子、大沢麻子(辻分珠算学院)
- ▼六級 中野朝美、柳谷龍大、煤田光則(浦田塾) 秋田谷蔵(辻分珠算学院)
- ▼七級 浜田美和子、秋田谷紀子(浦田塾) 林崎孝幸(辻分珠算学院)
- ▼八級 中井春香、中井勝海、渋谷祐一郎(浦田塾)
- ▼九級 秋月達淑(浦田塾) 成田麻美(辻分珠算学院)



健康相談に寄せて

がんばれ、Kさん

派遣保健師 野宮 富子

す。今月は、毎月息をきらし  
おとすれている人を紹介した  
と思います。

Kさんは明治30年生れの89  
歳。「この坂を登れるうちは  
毎月、血圧を測りにきますよ、  
保健師さん。あたらたらどう  
する？忙しい若い人に迷惑を  
かけてしまうが。」また今月  
も登ってきましたよ。まあま  
あ、この年になってもまだ向  
えがこなくてねえ！。生きて  
いるうちはあたりなくないも  
のね。」が定期の健康相談に

桂川地区は、毎月定期の健  
康相談を行っている地区です。  
家にいる人は皆、顔を出して  
くれるので仕事でこれない人  
の健康状態もこの健康相談を  
通して知ることができます。  
ただ、実地している場所が、  
小高い所にある施設を利用し  
ているので、登ってくるのに  
息がきれてしまうので大変で

心が安まる場所

若者登場



工藤 二美子 (脇元・20歳)

私は中学を卒業し、青森の  
高校へ進学しました。なぜ私  
が青森の高校を選んだかとい  
うと、今までと違った環境の  
中で自分をためてみたいとい  
う気持ちと、今考えてみれば  
軽率な考えだったかも知れ  
ませんが、親元を離れて暮ら  
してみたいという願望からで  
した。

しかし、実際の高校生活と  
いうものは思っていたような  
甘いものではなく、十六歳の  
私にとって全く知らない土地  
での生活は寂しさと不安の毎  
日でした。でも、そういう生  
活にもいつのまにか慣れ、三  
年間という月日もあっという  
間で、私にとっても良い経験  
になりました。

高校を卒業し、再び市浦村  
へ帰ってきたいま、やはり自  
分が生まれ育ったこの村が一  
番心の安まる場所だ」と、  
改めて実感しております。  
私だけではなく、皆がそう  
思えるような村であってほし  
いと共、これからの市浦村  
の発展に期待しているとこ  
ろです。



鳴海 萬さん(相内)  
長男 陽輝ちゃん(9ヵ月)  
ボク笑顔すてきでしょ!?  
みんなでボクを笑わせるので、  
泣き顔なんてできないよ。

おとすれるKさんの口ぐせで  
した。いつも戸をあけると、  
早くにきてまっていたるKさん  
が、ここの数ヵ月姿を見えなく  
なりました。なんと不思議に  
かかっていたら、具合が悪く  
て病院通いという。  
ただ、Kさんの口ぐせである  
「あたりだけはごめんだろ」  
という病気ではないらしいの  
で安心してきます。近頃では  
食欲もできてきたし日増しに元  
気になってきているようだと  
のこと。元気で坂を登れるま



で、今度はこちらがKさんの  
家にてむくことにはしようと思  
っています。  
健康相談の帰り、Kさん  
と顔をあわせたいと思い、た  
ずねてみました。奥で休んで  
いるらしく返事はない。近い  
うちに、またよつてみようと思  
っています。  
早く元気になってくださいな  
ね、Kさん。

窓の戸籍

- お誕生
- 川内由希美(脇元) 浩一
  - 笹山雅博(磯松) 明人
  - 秋田谷祐馬(太田) 光徳
- お結婚
- 飯島純一(東京)
  - 加納みどり(十三)
  - 山田秀廣(秋田)
  - 丸山靖子(太田)
  - 成田正記(相内)
  - 青田まき子(福島)

- おくさみ
- 三橋 正(磯松)
  - 村田 孝子(埼玉)
  - 村元 芳(磯松)
  - 山野 藤美(北海道)
  - 山野 彦彦(相内)
  - 平野 美恵子(相内)
  - 田村 勝一(小治)
  - 小林 修一(小治)
  - 石子 谷美佐子(相内)
  - 丁澤 唯志(車力)
  - 相川 由紀子(十三)
  - 吉田 勇二(相内)
  - 土崎 悦子(桂川)
  - 山崎 一男(太田)
  - 和田 松美(小治)
  - 三海 勇中(里)
  - 丸山 紀子(太田)

工藤 ハナ(十三) 80歳